幼い難民を考える会　CYRニュース

幼い難民に未来を

NO. 10

●150東京都渋谷区広尾4-3-1 ●03-499-1226 ●振替口座／東京1-36227

◇国際救援センター保育室で生活を始めたベトナム難民の子どもたち

ベトナムの"幼い難民"の保育はじまる

国際救援センターで

幼い難民を考える会は，さる4月21日にオープンした国際救援センター（東京都品川区八潮）の保育室に，7名の保母をおくるとともに，その保育内容を指導することになりました。

国際救援センターでは，6月16日現在ベトナム難民の子どもたち（0歳から3歳まで，ただし現在はセンター入居者が少ないため，6歳までの子どもを受け入れている）19名の保育が行なわれています。

昨年11月 政府の閣議決定を受けて設置された同センターは，外務省が主務官庁となり，日本に着いてから民間の施設で暮らしていたベトナム難民を収容，指導するための施設です。ここでは，日本で長く暮らしたいと思う難民を引きとり，日本での生活に必要な日本語の指導や，就職の斡旋などをします。これらの業務の運営は，アジア福祉教育財団・難民事業本部に委託されています。

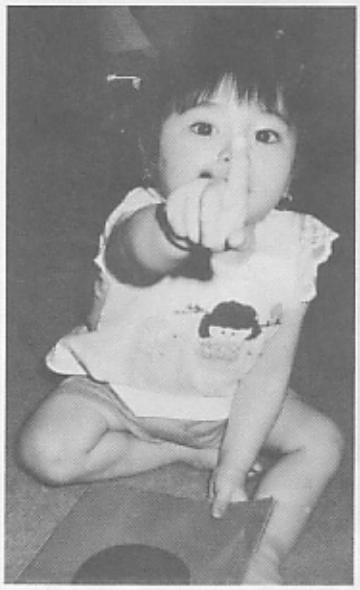
今年1月6日，外務省アジア局難民問題対策室今川幸雄室長（当時）より，幼い難民を考える会に対し，救援センターが開く保育室の運営協力の要請がありました。幼い難民を考える会では，タイの難民キャンプでのカンボジアの子どもたちとの豊富な経験を生かせること，定住難民の問題解決に積極的にかかわれるなどの判断から，第9回理事会（3月6日）を開き，国際救援センター保

育室運営協力（0歳から3歳までの乳幼児の保育）を決定しました。この理事会には，難民問題対策室・国際救援センター設立準備室長の塩崎修氏を迎え，日本にきているインドシナ難民の実態，国際救援センターの役割，民間協力の必要性について詳細な説明を受けました。

さて，幼い難民を考える会が外務省にすいせんした有資格の保母は，新卒者2名を除きいずれも国内，海外での保育経験に富む人たちです。5月2日から本格的に始められた保育の場では，ことばの違いによる戸惑いがありましたが，いまでは幼い難民たちもすっかり落着いて，楽しげに保育室に通ってきます。

保育室では5月27日，ベトナム人のお母さんたちとの初の懇談会を開きました。第一回目は子どもの食事，歯みがき，排泄をテーマに，第二回懇談会（6月10日）は，「衣服」について話し合いました。子どもの数も秋までには100名近くに増える予定です。また保母チームは，準備段階から現在までの4ヵ月間の経過報告をまとめるなど，新しい仕事に意欲を燃やしています。

今後はチームワークを生かし，保育内容に関しては，小倉雪枝をリーダーとして中村昊子，半藤晴子，川崎由紀江，田上幸代，飯野ゆかり，杉本真佐子のメンバーが，定期的な保育研修を続けることにしています。研修指導には，保育のベテラン山極小枝子理事があたり，第1回研修会を6月25日にひらきました。



◇検診も受け，保育室になじんだ子どもたちはくったくない。

センセ，オハヨ ゴザイマース

飯野ゆかり

元気なベトナムの子どもたちのあいさつで今日も一日が始まります。保育室のドアが開くとパタパタと自分の部屋に走って行きます。赤ちゃんたちもお母さんが日本語教室に行く時でも，もう泣きません。救援センターの保育室にきたての頃は，ほとんどの子どもが一人遊びか，せいぜい自分の兄弟と遊ぶくらいでしたが今では友だち同志で遊べるようになりました。いま人気があるのは，寄贈品の大きなオモチャの家です。女の子はその中で絵本を見たり，ままごとをしたりします。男の子はすり鉢型の屋根をひっくり返して中に入り，交代で回してはまるでコーヒーカップのようにして楽しんでいます。

でも，子どもたちは外に出るのが一番好きなようです。「散歩に行きますよ」と声をかけると，すぐ玄関に集まります。保母の手が足りず連れて行けない子がでてくると，その子たちはワンワン泣いて騒ぎます。

散歩のつぎに子どもたちが好きなのは，おやつです。おせんべいも好きだけどやはり果物の方が人気があります。この間は出された煮干しも「おいしいヨ」とペロリ。

子どもって不思議です。日本の子もベトナムの子も，みんな同じようにかわいいと思います。これから日本に定住して学校にも行くようになるけれど，いろんな事をたくさん吸収して，がんばれる子どもになって欲しいナ。

カンボジア難民キャンプから

難民の保母さん志願

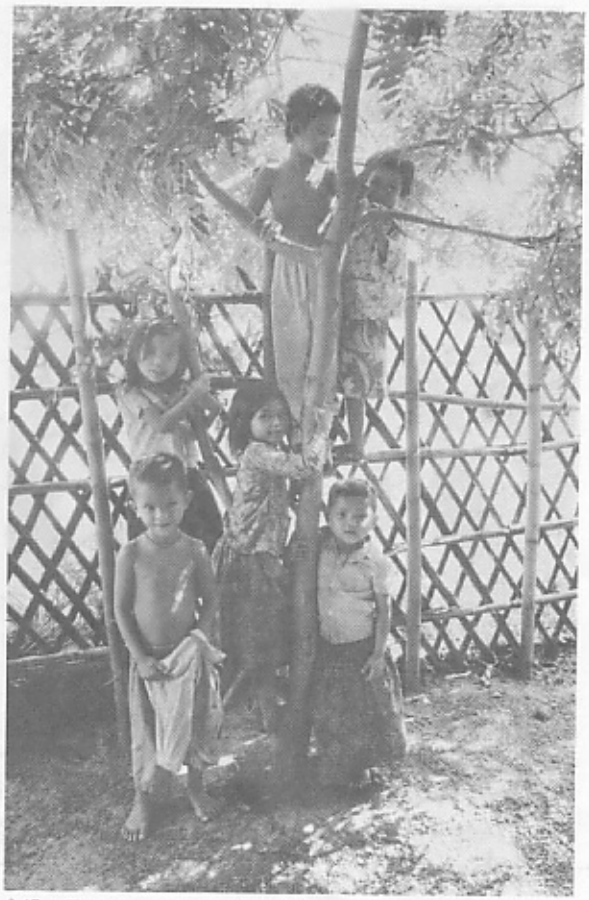
山本朋史

カオイダンにある保育センター「希望の家」の門に一枚の貼り紙が掲示されたのは昨年11月。プレスクール（保育園）の"保育者採用試験"の合格者名簿である。前日行われた面接には13人の採用予定のところに100人を超す人たちが並んだ。平均倍率10倍。大変な激戦だったようだ。貼り出された紙に自分の名前を見つけて喜ぶ人。「どうして友だちの名前がないのか」と抗議する人など様々だ。新聞社を退職し，いいぎりさんの協力で難民キャンプに入った私の目にこの難民の姿が強烈に焼きついた。

難民キャンプの中では，働く仕事もなく，配給だけで細々と生活している家族が多い。カンボジアで農業をしていた人たちはキャンプ内の土地を耕し，野菜を収穫してブラックマーケット（キャンプ内にあるヤミ市場）に流している。しかし大きな工場があるわけではなく仕事の量は限られている。とくにキャンプでは戦争による未亡人をはじめ女性の姿が目立つのに，女性の仕事はといえば，ほとんどないのが現状だ。家族をかかえた"戦争未亡人"に仕事を与えることもボランティア活動を進める上での大きな課題だ。保育園の保母にこれだけ多くの人が殺到したのもいかに女性の働く場が少ないかを現わしたものだろう。

大勢の志願者の中からたった13人を選ぶのは大変な作業だったようだが，その選考基準は①子どもに対する愛情②キャンプ内での家族構成や生活程度（"戦争未亡人"など生活が苦しい人を優先する）③学力，等が主なもの。応募した人は，19歳の女性から40歳の男性まで年令もいろいろ。中にはプノンペンから逃げ出し，前日キャンプにもぐりこんだという男性もいた。

◇保育者養成を希望して集まったカンボジアの女性たち
写真・森枝卓士



◇緑も子どももこんなに大きく育った。（保育センターで）
写真・高島哲夫

キャンプ内では貨幣の流通をタイ政府から禁止されており，仕事をしても難民にお金が支払われるわけではない（もっともブラックマーケットでは，堂々と現金での取引を行っているのだが）。給料は品物での支給だ。「希望の家」での給料は一人1日10バーツ（日本円で約100円）キャンプ内ではどの職種でもこれが相場だという。

「希望の家」では日本から派遣されている女性ボランティア3人が現場責任者として活躍していた。しかし，直接子供たちを教育するのは，すべてカンボジア難民である。プノンペンにある大学で仏文学を専攻したというオ女，学校は小学校しか出ていないけれどとにかく子供が大好きだという女性など。みんな生き生きとして子供たちと遊んでいた。

もちろん子供たちの教育ということが難民に対するボランティア活動の一番大きな柱だろう。それは「希望の家」で遊ぶ子供たちの顔が2年前に較べて数段明るくなっ

◇タイ・カンボジア国境で4年目を迎えたＣＹＲボランティア
（左から）いいぎり，須斎，成沢，関口　　写真・池内紀昭

たという関係者の証言を聞いてもわかる通りだ。しかし決してそれだけではない。例えば，この園児の教育をボランティア活動にきた経験豊富な外国人がすべてやってしまったらどうだろう。これほど子どもたちの明るい笑顔は生まれただろうか。確かに未経験の難民達の仕事よりスムースに進められたかもしれない。しかし，ことばや民族性の問題など，すぐに大きな壁につき当たってしまうだろう。このような壁をとり除くには，やはりカンボジア難民自身による教育が必要となってくる。そのためにも難民の心を支えるような精神面の援助は欠かせない仕事のひとつになっているように思う。

キャンプ・メモ

水浴び

タイは一年中日中の気温が30度を超える。「希望の家」でも日に１度先生が子どもたちに水浴びをさせる。

ミス・ケ

アランヤプラテートのボランティア宿舎に日本の女性ボランティアと一緒に住んでいるタイの女性。織物の村スーリンの出身でキャンプでは織物を教える。

トッケー

体長30cmもあるトカゲ。アランヤプラテートのボランティア宿舎に住みつき夜になると「トッケー，トッケー，グルグル…」と鳴く。（山本）

アランヤプラテート点描

成沢貴子

タイの奥地，カンボジアとの国境の町アランヤプラテート。タイの民家を借りて住むボランティアたちの心をなごませてくれる虫や動物たちを紹介しましょう。

雨期が始まる６月から７月にかけて，闇が深まると蛍が家に入ってくるようになります。窓を締め，明りを消してベッドに入ってから眺めるホタルの味わいはまた格別です。

そうかと思うと夜毎に，30cmくらいのとかげのようなトッケーが，その名の通り「トッケー，トッケー」とけたたましい叫び声を上げます。８月に入って声の勢いは弱まり，時たま聞こえる程度の何ともいえずカワイラシイなき声に変ります。９月，体長２cm足らずの白っぽい透き通る体のチンチョック（やもり）の赤ちゃんが網戸の上を這いまわるようになります。10月がすぎ，これが５cm位にまで成長するともう一人前に羽虫をつかまえます。また，カブトムシとコオロギがほぼ同時に現われるのもこの頃です。日本のコオロギは涼しい草むらで上品になき声を競いますが，こちらのコオロギは壁から窓へ，

窓から床へ，床から人へとつぎつぎに目標を変え，とびまわります。一緒に見ていた同僚いわく，「やっぱり辛いものを食べてるから，タイのコオロギはすごいのよ」

台所の増築で天窓ができると，窓の上のチンチョックの活動もお腹側から観察できておもしろくなりました。

子ども時代を団地で過ごした私には，アランヤプラテートでの生活は，夏休みにいなかに遊びに行った頃のような自然との再会でした。

◇アランヤプラテートでは象も水牛も珍しくない

写真・いいぎりゆき

私と戦争

豊島庸子

1976年6月，カナダのボランティア団体（Frontier Foundation Operation Beaver）のワークキャンプに参加するため私はひとりで日本を飛び出しました。トロントには世界中から約100人の若者が集まっていました。8ヵ月間のワークキャンプの間，日本人にはひとりも会わず，日本語も話さずで，ワークキャンプが終る頃には，英語で冗談もいえるようになっていました。

翌年3月，カナダを離れ，ひとり旅に出ました。アメリカ，メキシコ，ヨーロッパと，たくさんの国でいろいろな人に出会い，さまざまな生き方，考え方，世界があることを知りました。そこで考えたことは，核の被害者である日本人よりも，欧米人の方が核や戦争に対して身近に感じ，真剣に考えているということです。特に若者たちにそれを感じました。

カナダで働いた牧場では，世界各国から子どもを養子に迎え育てていました。カンボジアからきたマーク，マヒュー，ジョン，ルーク。インド人のレイチョ。黒くて大きな瞳が印象的でした。みな，戦争と飢えの犠牲者です。サンフランシスコで知り合ったイスラエル人のハダスは，ひと月前まで東京でホステスをしていたらしく，日本の裏の事情をよく知っていました。イスラエルでは女子にも数ヵ月の兵役があると話しながら，ハダスは祖国の歌をうたってくれました。夏に一緒に働いていた友だちを西ドイツにたずねた時，彼は丁度反核デモに参加中でした。フォークランド紛争のあった5月下旬，私はギリシャの小さな島にいました。イギリス人観光客の多いその島の海岸で日光浴をしていた私たちの間を，さまざまな噂が飛び交います。イギリス人の友だちは何度も本国に電話をして正確な情報を得ようとしていました。私が戦争をほんの少しでも身辺に感じたのはこの時くらいでしょうか。

私の祖母は，昭和20年8月6日広島にいた被爆者です。母は満州にいた引揚者でした。日本に戻ってからの私は祖母や母の話を聞き，原爆を体験した子どもたちの文集を読み，引揚者家族の写真を見る，そんなことばかりしていました。なぜ人間は自らの手で地獄をつくり出さなければならないのか。誰も殺し合うことなど望んでいないのに，なぜ，という疑問だけが残ります。自分の肉親が，親しい友だちが死んでゆく日常にどれほどの苦しみがあるのか，平和な社会でぬくぬくと育った私には想像もできません。

そんなことを考えていた時に，母が「こんなのがあるよ」とCYRニュースを手渡してくれました。これがきっかけとなって，6月からCYRに加わり，いまはCYR事務所で毎日しごかれて（？）います。これからの私にできることは，CYRの活動を通じて戦争を考え，せめて自分の子どもにだけでも，恐しい戦争を繰り返してはいけないと，しっかり伝えることだと思っています。

第三回定期総会ひらく

幼い難民を考える会第三回定期総会は，昭和58年5月22日午後，東京・広尾の宮代会館で開かれました。出席会員28名，委任状提出会員168名，計196名。議長に佐藤恒夫理事を選出し，つぎの議事をすすめました。

(1)事業報告

〈国内活動〉

写真展。現地活動の報告会。資金集めの催し。日本定住難民との交流。英文の案内書，会報の発行。活動内容の広報。国際救援センター保育室運営の協力。国内難民救援機関との連絡。難民問題理解のための情報交換。

国内で受けた助成金総額　5,034,000円

〈海外活動〉

●タイ難民収容所（カオイダン）における活動内容の報告。保育センター「希望の家」　在籍幼児（2歳半～6歳）数は，1500名(年間)。保育者・職員110名。付属施設の織物室　受講者50名，指導員25名，木工室専任15名。保育者養成講座終了者120名，識字教室　受講者30名。洋裁・手芸　受講者420名，指導員25名。

●ユニセフの委嘱によるバングラデシュにおける幼児を対象とした援助プロジェクトの実態調査。

●イギリスで開かれた第21回国際社会福祉会議分科会において，タイ難民キャンプ現場から見た難民問題の報告。国連難民高等弁務官事務所の要請を受け，ソマリア難民キャンプ・シガロ地区を視察。

●UNBROの委嘱により，カンボジア国境地帯難民村における教員養成プロジェクトに参加。

海外で受けた助成金総額　10,559,715円

(2)会計報告

収支決算書（57.4.1～58.3.31）

（単位　円）

収入の部			
科　目	予算額	決算額	増　減
前年度繰越金	16,501,215	16,419,477	△ 81,738①
会費・賛助会費	3,200,000	4,259,973	1,059,973
寄付・募金他	9,500,000	10,210,978	710,978
受取利息	400,000	946,888	546,888
計	29,601,215	31,837,316	2,236,101

① 前年度繰越金予算額の中に入っていた補助金の一部を差し引いた金額。

支部の部			
科　目	予算額	決算書	増　減
国内運営費	8,180,000	5,332,130	△ 2,847,870
国内活動費	2,180,000	1,126,254	△ 1,053,746
海外活動費	15,500,000	9,732,628	△ 5,767,372
次年度繰越金	3,741,215	15,646,304	11,905,089
計	29,601,215	31,837,316	2,236,101

補助金収支決算書（57.4.1～58.3.31）

収入		支出	
国内	5,334,400	海外	8,804,175
海外	6,043,187①	〃	5,485,075③
〃	2,911,663②		
計	14,289,250	計	14,289,250

① 当会会計年度内に交付された額。

② 57年度補助金として，(57.1.1～57.3.31）に交付された額。

③ 57年度申請補助金のうち交付遅延の理由で58年度にまたがって支出を認められ，支出が予定されている額。

鈴木雅博会計監事より，監査報告がなされた。以上の活動報告と会計報告を一括承認。

(3)規約改訂

改訂の目的は，今までの規約の不備を補い，「会」の団体性および団体として行動するためのけじめを，明確に規定するため。また，「会」としての意思決定とその運営についても，明確にすることを目的とした改訂案が提示され，検討のうえ，全員一致で改訂案を承認。

この後，改定規約に従い，役員選出を行う。いいぎりゆき，川村フク子，広戸直江，見坊和雄，佐藤恒夫，箭内周祥，深水正勝，山極小枝子，および中村昊子の9人を理事に鈴木雅博，笹尾勝をそれぞれ監事に定めた。

理事会の互選により，代表理事にいいぎり理事，事務局担当理事に深水，川村理事がそれぞれ就任。

(4)活動方針

〈海外〉

現地における難民の自主的な保育施設の運営。父母を対象とした技術指導などの運営指導と，運営資金援助。

〈国内〉

国際救援センターへの協力と保育内容の指導。

初の"全員集合"
現地ボランティアと事務局

6月19日(日)，幼い難民を考える会の現地活動と事務局の仕事にたずさわってきた全メンバー5名，国際救援センター保母2名，それに役員5名が加わり，はじめての懇談会をひらきました。

CYRの現地活動スタッフと事務局スタッフとは，これまで交替制により，いずれの仕事にも携われる態勢をとってきました。そこで今回，現地で働く者と事務局で窓口となる者がそろって，さまざまな問題を話し合うことになりました。

合いのねらいは，発足以来4年の間に，難民キャンプでの仕事が，その目標の通り，ほとんど難民の手に移ったことから，現地活動のあり方を見直すためのものです。

議題は現地活動の変遷，東京事務局の機能，それに新しい分野の国際救援センター保育室の仕事について。

現状報告，今後の見通しを含め，会がいかに民間団体として有意義な活動を続けられるかをめぐって，出席者のひとりひとりが会とのかかわり方を再確認しました。

カット・川畑美津子

催しもの

3月3日

日本の稚びやかな **雛(ひな)祭** に，難民の方をお招きしてはと，ボランティアの主婦7名が集り，津田さん宅でパーティを開きました。

赤い雛壇の前に手料理が並び，カンボジアからきたソンさんとソワンさんをはさんで色々な質問がとび出しました。日本で困ることの第一は家計のやりくりとのことです。お二人ともご主人は定職についていますが，子どもたちの給食費が大へんな負担であること，冬の暖房費が重荷だと生活の厳しさを打ち明けてくれました。また，カンボジアのパパイヤが大きくて安かったこと，青いバナナをお料理に使うことなど，平和だった遠い祖国をしきりに懐かしんでいました。（高田）

4月17日

第7回**幼い難民のためのバザー**。ボランティアの方々の骨折りにそむいて，当日は朝から雨。売上げもお天気模様と平行線をたどりました。人気が高かったのは手づくりのケーキやクッキー。難民キャンプで織られた絹の絣地など，作品もずいぶん豊富になりました。次回は10月下旬の予定です。ぜひご協力ください。（バザー係）

5月1日

麻布教会のご好意で麻布みこころ幼稚園ホールを借り，写真展とミニバザーを催しました。パネル35点，難民キャンプで織られた布地，麻布教会の会員やボランティア手作りの手芸品，ケーキなどが所狭しと並べられました。

また，4月に帰国した成沢貴子を囲んでの座談会では，CYRの活動，難民キャンプのこと，ボランティアの日常生活などについて質問が集中しました。（秋沢）

5月14, 21日

アン・バーンズさんを講師に救援センター保育室の保母さんが**ベトナム語の勉強会**を開きました。（小倉）

5月24日

最近，小さなサークルを通じてCYRの現地活動の様子を伝える機会が多くなりました。

5月半ばすぎ東京で，**ハスカップの会**と呼ばれる植物愛好家の集りに招かれ，成沢，豊島両メンバーがカンボジア難民の話をしました。キャンプの女性たちが織り上げた美しい絣織に感心した参加者は，今後どのようにしたら，現地での織物プロジェクトを支援できるか，などの熱心な話合いとなりました。（成沢）

事務局では，このような形で会の活動の実態を，できるだけ多くの方々にお知らせしたいと思っています。

5月28日

神奈川県伊勢原市民文化会館で，「よい本をひろめる会」主催の**難民リレー講演会**が行われました。**やせっぽちのチア**の著者，梁敏子（やん・みんじゃ）さん，手島悠介さん，CYRのいいぎりゆき代表理事が，各々の立場から難民について語りました。また，同会場では，27日から3日間，カオイダン難民キャンプの写真も展示。（豊島）

◇キャンプの子どもたちの様子を写真に見る親子。

6月5日

目黒アンセルモ教会バザーに参加。キャンプで織られた手織絹地，絣かすりが好評でスカートやスーツにと，よく売れました。またさわやかな季節とあって，木綿地も子ども服やブラウス用にと喜ばれていました。（成沢）

26日

定住難民のためのバザーが高輪教会で，**青少年福祉センター・チャリティバザー**が聖心インターナショナルスクールで開かれました。CYR部門の売上げ計14万円。

CYR往来

2月 2日　塩崎修，渡辺正直氏（外務省アジア局難民問題対策室）ほか3名，カオイダン保育センター来訪。

2月27日　豊中市立大池小学校PTA代表　前川光永氏，カオイダン保育センター来訪。

3月 3日　いいぎりゆき，日赤沖縄支部本部（もとぶ）国際友好センター訪問。

5日　小倉雪枝，国際救援センター保育室開設準備のため，タイより帰国。

8,10日　いいぎり，カンボジア国境ノンプルー難民村へ。

9日　いいぎり，同バンサンゲー難民村へ。

4月21日　いいぎり，ユネスコ・アジア太平洋地域幼児教育会議出席のためニューデリーへ。

23日　成沢貴子，タイでの11ヵ月の任期を終え帰国。以後東京事務局勤務。

30日　いいぎり，ユネスコ・アジア太平洋地域幼児教育研修会議に招かれバンコクへ。

5月　ジェイセケラ氏（スリランカ，サルボダヤ）

8-10日　ほか1名，カオイダン保育センター来訪。

14日　いいぎり総会出席のため帰国。

23日　アン・ガウ氏（国際難民奉仕団）カオイダン・保育センター来訪。

28日　須斎昌子，タイでの8ヵ月の任期の後，帰国。

6月16日　関口晴美，タイでの1ヵ年勤務を終え帰国，引き続き東京勤務。

20日　秋沢ヒロ，現地勤務のため，タイへ。

22日　いいぎり，タイへ。

29日　安倍外相，小木曽駐タイ大使一行カオイダン保育センター視察。園児600名にクレヨン画用紙をプレゼント。

事務局から

- さる5月22日に開かれた定期総会の詳細な報告書がまとまりました。日頃，会員の方々との交流が途絶えがちで，会の活動状況をお伝えできない悩みを，この記録をもって多少なりとも解消できればと願っています。ご意見，ご批評をお寄せください。
- 6月末現在，当会の現地活動，事務局運営は専任者4名が交替であたっています。資金集め，催しもの，会報発行，会員名簿整理などの面で，大勢のボランティアのお力を得て，以前にくらべると会の機構も整ってきました。しかし，広報面での立遅れから，人材，資金の問題にはつねに脅やかされています。みなさまの会を育てるためにも，ぜひお知恵を貸してください。